

イミノクタジン酢酸塩液剤 ベフラン液剤25	取扱メーカー： 協友アグリ、クミカ、サンケイ*、 三井アグロ、ホクサン、一農、琉産 原体メーカー： 日本曹達
成分： イミノクタジン酢酸塩〔グアニジン系 PRTR・1種〕…25.0% その他 PRTR 該当成分： ボリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル〔PRTR・1種〕…5.0%	性状： 淡黄色澄明水溶性液体 毒性： 劇物 消防法： —

【品目特性】

- 抗菌スペクトラムの幅が広い。
- 植物体に侵入後の菌に対しても、ある程度の治療効果を示すが、浸透性殺菌剤ではないので予防的な散布において大きな効果を発揮する。
- 酸、アルカリ、光に対して安定であり、優れた残効性がある。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】

- 他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物毎の総使用回数の範囲内で使用する。

〈りんご腐らん病〉

- 胴腐らん、枝腐らんとともに3～5月に発生するが、病原菌は剪定痕、先枯れ、果台などから発病前年に侵入している。このため、散布は初冬の降雪前、早春の萌芽前に行い、病原菌の侵入、病気の進展を阻止することが大切である。

〈ぶどう晩腐病〉

- 枝、穂梗、巻きひげなどで越冬するので、春先の萌芽前に散布する。これにより越冬病原菌の密度をさげ、生育期の発病を防止する。

〈麦類の種子消毒〉

- 麦類の種子消毒に使用する場合、吹き付け処理は、専用種子消毒機を使用し、薬液が種子に均一に付着するようにする。また塗沫処理の場合は容器内で種子をかきまぜながら薬液を滴下し種子に均一に付着させる。

〈小麦の少量散布〉

- 本剤を希釈倍数250倍で使用する場合は、少量散布に適したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を用いて均一に散布する。

【薬効・薬害等の注意】

- 石灰硫黄合剤と混用する場合は原液どうしでの混合は沈殿を生じるのでベフランの希釈液をつくり、かきまぜながら石灰硫黄合剤を加える。

- ボルドー液とは沈殿を生じるので混用しない。

- りんごに使用する場合、芽出し2週間すぎから落花後40日頃迄はサビ果、花そうでの軽微な不整葉を生じることがあるので、この時期の散布はさける。

- りんごの展葉期に使用する場合、この時期の西洋なしには薬害を生じるおそれがあるので近接している場合は、かからないように注意する。

- りんごの紫紋羽病に使用する場合、苗木発芽後の処理では展葉を阻害する傾向があるので発芽後の処理はさける。また、苗木根部に付着した土壌をできるだけ除去したのちに処理する。

- ぶどう晩腐病（休眠期散布）の防除の際、500倍では効果が劣ることがあるので、多発が予想される場合は250倍で使用する。

- 適用作物（アスパラガス、りんご、ぶどうーハウス栽培、日本なし、もも、かんきつ等）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

- 適用外作物（稲、きゅうり、あぶらな科作物、豆類、うめ）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

- 共通注意事項8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】

- 桑にかからないよう注意。

- 藻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。



【適用と使用法】

作物名	適用病害名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	イミノクタジンを 含む農薬の総使用回数		
麦 類 (小麦を除く)	雪腐大粒菌核病 紅色雪腐病	1000 倍	60～150 ℓ	根雪前	2 回以内	散布	3 回以内 (種子への 処理は 1 回以内、 散布は 2 回以内、 出穂期以 降は 1 回 以内)		
	紅色雪腐病	10 倍	乾燥種子 1kg 当り 30～50ml	は種前	1 回	塗沫処理			
		5 倍	乾燥種子 1 kg 当り 15～25ml			種子吹き付 け処理又は 塗沫処理			
	紅色雪腐病 条斑病 斑葉病 網斑病 ふ枯病 なまぐさ黒穂病	原液	乾燥種子 1kg 当り 3～5 ml			10～30分間 種子浸漬			
	斑葉病	250～ 500 倍	—						
	なまぐさ黒穂病	1000～ 2000 倍							
	小 麦	雪腐大粒菌核病 紅色雪腐病	1000 倍			60～150 ℓ		根雪前	3 回以内 (但し、出穂 期以降は 1 回以内)
うどんこ病 葉枯症		14 日前まで							
赤かび病		1000～ 2000 倍	根雪前						
紅色雪腐病		250 倍	25 ℓ	は種前	1 回	塗沫処理			
		10 倍	乾燥種子 1 kg 当り 30～50ml						
		5 倍	乾燥種子 1 kg 当り 15～25ml			種子吹き付 け処理又は 塗沫処理			
		紅色雪腐病 条斑病 ふ枯病 なまぐさ黒穂病	原液				乾燥種子 1kg 当り 3～5 ml		
			なまぐさ黒穂病				1000～ 2000 倍	—	10～30分間 種子浸漬
り ん ご		モニリア病 腐らん病 黒星病 うどんこ病	1000 倍	200～ 700 ℓ	展葉期	6 回以内 (但し、開花 期以降散布 は 3 回以内)	散布	8 回以内 (液剤及び水 和剤は合計 6 回以内 (開 花期以降は 3 回以内)、 塗布剤は 2 回以内)	
	腐らん病	500～ 1000 倍	休眠期						
	斑点落葉病 褐斑病 輪紋病 すす点病 すす斑病	1500～ 2000 倍	前日まで						
	黒星病	1500 倍							
	紫紋羽病	250 倍		—	苗木植付前				—

作物名	適用病害名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬 の総使用回数	
ぶ ど う	晩腐病	250 ～ 500 倍	200～ 700 ℓ	休眠期	1 回	散布	3 回以内 (休眠期は 1 回以内、 生育期は 2 回以内)	
	褐斑病 黒とう病 つる割病	250 倍		60 日前まで	2 回以内		5 回以内 (塗布剤は 2 回以内、液剤 は 1 回以内)	
	黒とう病 枝膨病	1000 倍		収穫後～ 休眠期	1 回			3 回以内 (休眠期は 1 回以内)
な し	黒星病			休眠期				
	黒斑病	250 倍						
も も	縮葉病	250 ～ 500 倍						
み か ん	貯蔵病害(青かび病) 貯蔵病害(緑かび病)	2000 ～ 3000 倍		前日まで	3 回以内		2 回以内	3 回以内
	貯蔵病害(黒腐病) 貯蔵病害(白かび病) 貯蔵病害(すす斑病)	2000 倍						
	かんきつ (み か ん、 ゆずを除く)	貯蔵病害(青かび病) 貯蔵病害(緑かび病)						
ゆ ず	貯蔵病害(黒腐病) 貯蔵病害(白かび病) 貯蔵病害(すす斑病)	2000 倍						
	貯蔵病害(青かび病) 貯蔵病害(緑かび病)	2000 ～ 3000 倍						
	貯蔵病害(黒腐病) 貯蔵病害(白かび病) 貯蔵病害(すす斑病) 幹腐病	2000 倍						
マルメロ か り ん	腐らん病	1500 倍			展葉期		4 回以内 (但し、開花 期以降散布 は 3 回以内)	4 回以内 (開花期以 降は 3 回 以内)
アスパラガス	茎枯病	1000 倍	100～ 300 ℓ	収穫終了後 (冬期まで)	5 回以内		5 回以内	
りんどう	花腐菌核病 葉枯病 黒斑病	1500 倍	100～ 700 ℓ	—	8 回以内		8 回以内	